

＜株式会社エフエム東京 第 522 回放送番組審議会＞

1. 開催年月日：令和 7 年 10 月 7 日（火）
2. 開催場所：エフエム東京 11 階大会議室
3. 委員の出席：委員総数 6 名（社外 6 名 社内 0 名）

◇出席委員（6 名）

ロバート キャンベル委員長	佐々木 俊 尚 委員
松 田 紀 子 委員	山 口 真 由 委員
柴 崎 友 香 委員	福 里 真 一 委員

◇欠席委員（0 名）

◇社側出席者（5 名）

唐島 夏生	代表取締役社長執行役員
宮野 潤一	執行役員編成制作局長
砂井 博文	編成制作局制作部長
蘭 有紀子	編成制作局編成部長
藤岡 泰弘	編成制作局制作部プロデューサー

◇社側欠席者（1 名）

内藤 博志	取締役執行役員コンテンツ事業局長
-------	------------------

【事務担当 宮野放送番組審議会事務局長】

4. 議題：番組試聴 （76 分）

『SCHOOL OF LOCK!』

2025 年 8 月 25 日（月）～28 日（木） 22:00～23:55 放送 ダイジェスト

＜議事内容＞

議題 1:最近の活動について

■ 8 月度聴取率調査結果

当社は、ビデオリサーチ 2025 年 8 月度の首都圏ラジオ合同聴取率調査（2025 年 8 月 25 日～31 日）において、以下のとおり、主要区分においていずれも在京首位を獲得しました。

- ・男女 18～49 歳：在京首位（同率） ※22 年 2 月以来「22 期連続」首位
- ・男女 12～69 歳：在京首位（同率） ※22 年 4 月以来「21 期連続」首位

今回 8 月度は、メインターゲット区分(男女 18～49 歳)で J-WAVE・ニッポン放送と同率首位。個人全体区分(男女 12～69 歳)ではニッポン放送との同率となりましたが、在京聴取率トップは継続中です。年齢別では主に 30 代スコアが前回比で下降となりましたが、ラジオボリューム層である 50 代スコアが伸ばせており、全体のスコア牽引につながりました。次回 10 月度に向けて引き続き内容面も総点検し、更なる聴取率向上を目指し取り組んでまいります。

■ 『Skyrocket Company FESTIVAL～歌って！踊って！大宴会～』開催

TOKYO FM で毎週月～木曜日に放送中の“ラジオの中の会社”がコンセプトのワイド番組『Skyrocket Company』では、2025 年 8 月 30 日(土)、文京シビックホール 大ホールにて、『Skyrocket Company FESTIVAL～歌って！踊って！大宴会～』を開催しました。

『Skyrocket Company』と番組に縁の深い、眉村ちあき、森 大翔、Lucky Kilimanjaro の 3 組のアーティストとともに、ライブ、トーク、リスナー参加型企画で盛り上がり。会場に集った 1800 名と 1 日限りの大宴会を楽しみました。

番組では、2020 年 3 月にライブイベントを計画していましたが、コロナ禍で無期限の“延期”となっていました。当時出演予定だったのが、今回のライブでトリを務めた Lucky Kilimanjaro。5 年 5 ヶ月の時を経て、パワーアップした開催でリベンジを果たしました。



▲ステージに全員集合で大合唱



▲出演者の集合写真

■『喋るズ 全員集合 SP 橋本直生誕祭 ～まわす奥田に、リリー&嶋佐が乾杯し、ヒコロヒーが華添えて、レインボーが抱きしめる～』開催

今年1月よりスタート、平日20時台に曜日替わりの人気芸人たちがパーソナリティを務めるワイド番組『喋るズ』で9月27日（土）、ルミネ the よしもと（東京都新宿区）にて、初の番組イベント『喋るズ 全員集合 SP 橋本直生誕祭～まわす奥田に、リリー&嶋佐が乾杯し、ヒコロヒーが華添えて、レインボーが抱きしめる～』を開催しました。

『喋るズ』の各曜日は、レインボーがコンビで担当する月曜『エフエムレインボー』、銀シャリ・橋本&ガクテンソク・奥田が担当する火曜『銀銀学学』、見取り図・リリー&ニューヨーク・嶋佐が担当する水曜『ソプラノ C』、ヒコロヒーが担当する木曜『トーキョーエフエムロヒー』。各曜日が一堂に集結する初の試みとなりました。

イベント当日は、銀シャリ・橋本の誕生日ということもあり、生誕祭と銘打ち、橋本の年の数「45」を目標に全出演者がホメるコーナーや、自分への誕生日をあてる、プレゼント探偵・橋本などのコーナーを展開。大盛況で終演となりました。



議題 2：番組視聴

【番組名】

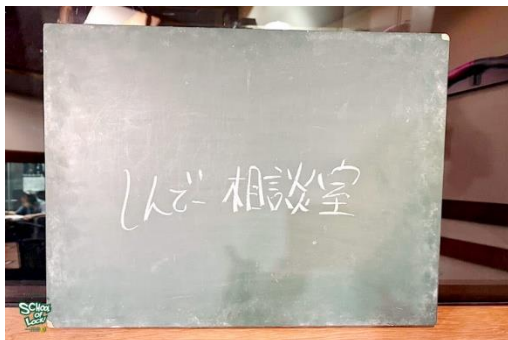
『SCHOOL OF LOCK!』

2025 年 8 月 25 日（月）～28 日（木） 22:00～23:55 放送のダイジェスト

【番組概要】

今回ご視聴頂くのは、『SCHOOL OF LOCK!』8 月 25 日（月）～28 日（木）放送のダイジェストです。この番組は、全国の 10 代に向けて“ラジオの中の学校”をコンセプトに平日月曜～金曜、生放送でお届けしているワイド番組です。パーソナリティを務めるのは、こもり校長（GENERATIONS 小森隼）、アンジー教頭（アンジェリーナ 1/3）。さらに、様々な人気アーティストがコーナー別講師として出演しています。

ご視聴頂く 8 月 25 日（月）～28 日（木）の回は「しんどー相談室」と題し、10 代の様々な“しんどい”ことに耳を傾けました。夏休みの終わり、8 月 31 日、9 月 1 日は 10 代の自殺率が最も高いといわれていることから、「今しんどいことを抱えている君へ」向けて、どんなことでも聞かせてほしいと投げかけ、様々な悩みを抱える 10 代と電話を繋ぎ、その声を全国へ届けました。



①オープニング 8/25（月）

└8/25（月）の「しんどー相談室」をお届けしていくことのお知らせ

②電話1人目：神奈川県 16 歳（高2）女性 RN.こん

└親との関係がしんどい。過保護に感じてしまい、距離感や接し方への悩んでいる。

③電話2人目：石川県 14 歳（中2）女性 RN. RamJam

└聴覚過敏で教室に入れない。イヤーマフへの目線も気になり、別室登校を続けている。

ミセス LOCKS!を普段聞いていて、ミセス LOCKS!放送後記に「しんどー相談室」のことが書いてあり掲示板へ書き込んでくれた。

④乃木坂 LOCKS! 賀喜遙香先生

└「しんどい時に、自分を救ってくれた1曲」についての話

⑤電話3人目：滋賀県 17 歳（高2） 女性 RN.まるめがねんねん

└ 人を信じられない、そんな自分が嫌でしんどい。書き込むことに躊躇していたが、放送中に思い切って書き込んでくれた。

⑥エンディング 8/28（木）

└8/28（木）のエンディング 1週間を通して 最後の黒板

【委員の意見および社側説明】

（「○」委員意見／「■」社側意見）

○10代の方々の悩みに真剣に向き合うことをしっかりやっていること自体がすごいと思いながら試聴した。番組内では、校長・教頭は、まず、しっかり相手の話を聴く、その後に、自分はこうだったよ、こう思うよ、と話す、最後にその悩みを相談してくれた人を肯定する、そういう流れで聴くんだなと、これは仕事などでも参考にさせてもらいたいと思った。

○電話で悩みを話すこと自体、10代はほとんど経験がないのではないかな。メールやLINEだと、ある程度整理しておかないと伝えられない訳で、番組では途中で、「ちょっと1回箇条書きにして整理してみよう」というアドバイスをしていたが、ひょっとして若い世代は整理されていないことを話す機会がそもそもないのかもしれないなと思った。10代が電話で話すということが新鮮で、救いになっていると思う。

○企画タイトルがよい。進路相談室ではなく「しんどー相談室」。言葉が覚えやすいし、大事なのは進路相談なんかじゃなくて、しんどー相談だよな、と。ある種の啓発にもなっているし、最後に校長が、「心が動くからしんどーと書いて、その心が動くからしんどいという思いが生じて、でもそれは人間ならではのことで、そのこと自体を認めたほうがいい」という言葉で括ったのも見事なまでのコピーワーク。

○人生相談は、私は好きで、よく他の媒体も聴いたり読んだりしているが、答え方はすごく難しいだろうなと思う。回答者の思いやりや想像力がすごく大事になってきていると思う。『SCHOOL OF LOCK!』は普段はとても賑やかな放送をしていて、普段の放送回とのトーンの違いが際立ったなと思う反面、その賑やかな放送回を聴きながら、寂しい思いやしんどい思いをしている人がいるんだということを、同じ10代のリスナーが想像できる回だったと思う。

○「相談するだけで解決できないかもしれないけど話を聴くことはできるよ」と何度も繰り返していたのが良かったと思う。もう一つの教室というか、学校のような場所、関係性が成り立っているからこういった相談もできるのだろう。

○質問者の相談に自分だったらどう答えるか、自分には校長・教頭の役は務まらないと思いながら聴いた。今の若い世代は生活する環境が益々大変になっていると聞く。普通という範囲がとて狭くなっていて、それでも普通であることを求められる機会が多く、選択肢が多いから「これなら頑張ればできるのではないかな」と本人の努力に還元されてしまう辛さがある。夏休みが明けて学校に行くのが辛い人

が多いこの時期に、このような企画を実施するのは本当に意味のあることだと思う。校長・教頭がすごく言葉を選びながら、相談してきた 10 代に言葉が届くように話していたのが印象的だった。相談者が全員女子だったのは、やはり男子は自が弱いところや辛いことを電話で話すのにはハードルが高いのかなと思った。

○中高生はどうしても学校と家庭しか居場所がないので、世界が狭くなって、思い込みになりがち。そういう若者たちに、校長と教頭の力でちょっとだけ視野を広げているというか、光を見出せるように優しく寄り添っている番組だと思う。校長・教頭が自分の弱みもさらけ出しながら、私たちも一緒だよと、語っているところに、聴いている我々もちょっと励まされるところがあったり、子どもたちは勇気づけられるのだと思う。

○子どもが成長するうえで、親と子の縦軸はもう絶対的な関係だが、親以外の大人と接する斜めの軸が実はすごく重要と言われていて、その意味でも、今回相談してくれたリスナーはもちろん、これを聴いているリスナーにとっても、校長・教頭の発言が斜めの軸を生み出しているのではないかなと思う。親だと言えないようなことをやや目の大人から教わって、それがいいように作用していく。親には言えないけど、親戚のおじさん・おばさんには言えるような。そんな関係がこのラジオで形成されているのではないかなと思う。

○1 つ要望があるとすれば、今の 10 代はデジタルが当たり前にある時代に育って、小学生のうちから LINE を使いこなしている。SNS 上で自分が晒される恐怖に非常に敏感だったりもして、親友だと思ってちょっと話したら次の日にクラス全員が知っているというような危険性が本当に毎日あるような世界で生きていて、我々が思っているよりずっと SNS に支配されている。なかなか友人にも心を開いて相談できない中でこの場があることは素晴らしいが、校長も教頭も、困難を乗り越えた人の話ではあるので、今、同じように悩んでいる、同世代のリスナーたちが、共感してはげまし合えるような場所を作ってあげられたらもっと意義のあるものになると思う。

○寄り添うという言葉はなかなか難しいテーマで、世の中でよく言われているのは、女性が悩みや苦悩を話すと男性はそれに対するソリューションを提示したがる。しかし女性の方はただ共感・同調したかっただけで、解決法などは望んでいないということがある。また、SNS 上では、酷い目にあったという話をすると、かわいそうという声がたくさん集まり、それが増幅して私はとんでもない被害者だ、という思いから抜け出せなくなってしまうというような研究結果も出ている。世の中には解決策がないケースも多くあって、今回の相談者の悩みも解決が難しかったりする。直接介入すれば解決するかもしれないけど生放送の番組には限界がある。どうやって寄り添うのか難しいなと思いながら聴いていたが、校長を務めて

いる小森氏が、予想外の寄り添い方をしていたのがとても新鮮な発見だった。最初に、「あなたの気持ちを言ってくれるだけで僕は嬉しいよ」「ずっと応援するよ」っていう同調的な寄り添いはするが、それだけに留まらず、例えばお母さんとの関係に悩んでいる生徒に、「もし、自分がお母さんだったらひょっとしたらこう思っていたんじゃないのかな」という他人の目からのどう見えるか、という視点を提供したり、或いは、自分自身がこんなにダメな人間だったってことを提示することによって、より自分と相手がフラットな関係に落とし込めるっていうところで相手を安心させたり。他にも、俯瞰的な見方で「あなたが今いる場所ってこういう場所なんじゃないの」と立体的な空間における彼女の位置みたいなものを指し示すことで「あ、なるほど、自分のいる場所ってこうだったんだ」って理解が進んだりとか。ありとあらゆる方法を使って、単なる同調ではない寄り添いをきちんとやっているなと感心した。「こんなにすごい寄り添いができる人がこの世にいたんだ、まだ 30 歳ぐらいなのに」というところで大変感動して、尚且つ、今後の自分が他人の意見に対してどういうふうに向き合うのかってことに対しても非常に参考になった。

■大変貴重なご意見をありがとうございました。

6.議事内容を以下の方法で公表した。

① 放送番組「TOKYO FM Navi」

10 月 26 日（日）5:55～6:00 放送

② 書面:TOKYO FM サービスセンターに据え置き

③ インターネット:TOKYO FM ホームページ内 <https://www.tfm.co.jp/>